

発表者氏名：	林 賢三
所 属：	教育委員会
役 職：	専門主事
派遣職種：	京都市国際教育・グローバルキッズ研究会顧問
派遣職種：	特殊教育（シニアボランティア、平成 17 年度）
派遣国：	モンゴル
派遣先：	

タイトル：	これからの教育の中で、帰国隊員に望むもの
キーワード：	京都市の取り組み、国際貢献特別選考、研究会の設立、課題と展望

発表要旨：

本市では今後の 10 年を目指して、京都市国際化推進プラン（仮称）の策定を目指している。その案では「**青少年の参加型の交流の推進**」「**JICA 等の国際協力機関と連携した技術協力の推進**」をあげている。

本市の学校に在籍する外国人は 1,258 人（小、中、高、特）である。内訳は韓国・朝鮮 1025 人、開発途上国は中国 174 人はじめ 219 人である。（全生徒数 105,713 人、290 校）国はフィリピン、インドネシア、ペルーなど 18 カ国である。ある小学校では在籍の 3 分の 1 が日本語学習の支援が必要な学校も存在する。

学校教育の重点では、国際理解教育の推進においては、「地域に住む外国人や留学生，**海外在住経験者の協力を得た取組**や京都市国際交流協会と連携した取組，外国の学校との交流などを通して，世界各地の多様な文化・生活・習慣に触れ，親しむ体験活動の機会を増やすことにより異文化理解を深め，コミュニケーション活動を推進する」と定めている。

本市では JOCV に関して平成元年以来，13 名の現職参加者（有給）を出しています。現在派遣中に 1 名，来年度派遣予定に 1 名おります。本市では平成 16 年に全国初、JOCV 経験者に対して「**国際貢献特別選考枠**」（1 次試験の教養を論文に変更）で 10 名程度の採用を実施している。その結果，平成 17 年～20 年まで 27 名の採用に至っている。経験者は 24 カ国、40 名となっている。

この協力隊経験者の活躍の場として、平成 20 年に京都市総合教育センターの指導のもとに「**京都市国際教育・グローバルキッズ研究会**」が立ち上った。会員数 77 名、経験者 17 名である。京都市の研究会活動として、開発教育、研究授業、ワールドフェスティバルなどを実施している。経験者の活動が本市の教育の向上と国際感覚にすぐれた子どもの育成に生かされることを期待している。



研究会設立メンバー
（注；後列左から 2 人目が林さんです）